

第2回在宅医療・介護スクラム塾（多職種連携研修会）

福法倫が斬る！？「脱」困難事例～どうしようを解きほぐすヒント～

テーマ：『治療や支援を拒むのはなぜ？？～糖尿病治療の再開に向けて～』

講 師：沖縄大学 人文学部 福祉文化学科 教授／社会福祉士 玉木 千賀子 氏
ゆいま～る法律事務所 弁護士 寺田 明弘 氏
琉球大学病院 地域・国際医療部 臨床倫理士 金城 隆展 氏

○日 時：令和6年11月5日（火）午後7時00分～9時10分

○場 所：沖縄県医師会・3階ホール

○参加者：40名（医師2名、看護師11名、薬剤師6名、

リハビリ2名、ケアマネジャー・ケアプランナー8名、介護職3名、

MSW3名、社会福祉士3名、その他2名）



司会：嘉数 朗 氏

【目的】困難事例を多角的に学び、複雑な問題に直面したときの対処能力を向上させる。

困難事例との出会いで新たな経験を得ることで、学びを深め自己成長を目指す。

【対象】医療・介護関係者

【方法】事例+問い合わせ、グループワーク（事例検討 ⇒ 多職種それぞれの視点から意見交換）

【考察】参加者より、「支援と業務の違いについて、本人の人生と一緒に関わっていくという大切な視点が学べた」、「症例の経過を小出しに進めていくのが斬新だった」、「ナラティブは相手ではなく自分（支援者）を変えるもの、確固たる意志ではなく関係性でつくられる意志という話が参考になった」「“本人が答えを持っている”を常に意識したい。支援者側で話を進めてしまって本人の想いを無視していたことを反省。専門職含め皆で話し合って本人の想いを聞き取れるよう支援したい」などのご意見があり、一つの困難事例に対して福祉・法律・倫理の専門家からの視点の助言、参加者からの活発なグループワーク発表もあり、非常に有意義な学びの多い研修会になった。また、「限られた時間の中で内容を盛り込みすぎて、ゆっくり話す時間がなかった。時間内でも終われるようにしてほしい」というご意見もあったため、次回の開催時にはグループワークの時間や専門家による助言もしっかり確保しながら全体的な時間配分を考慮することとした。

福法倫
が斬る!
～「脱」困難事例を解きほぐすヒント～

玉木 千賀子 氏

【講師】

沖縄大学 福祉文化学科 教授
社会福祉士



寺田 明弘 氏

【講師】
弁護士

ゆいま～る法律事務所



金城 隆展 氏

【講師】
臨床倫理士

琉球大学病院 地域・国際医療部



全体風景



グループワーク

発表



令和6年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業

第2回 在宅医療・介護スクラム塾 『福法倫が斬る！？「脱」困難事例～どうしようを解きほぐすヒント～』 アンケート結果

日 時：令和6年11月5日（火） 19時00分～21時10分

場 所：沖縄県医師会・3階ホール

テーマ：『治療や支援を拒むのはなぜ？？～糖尿病治療の再開に向けて～』

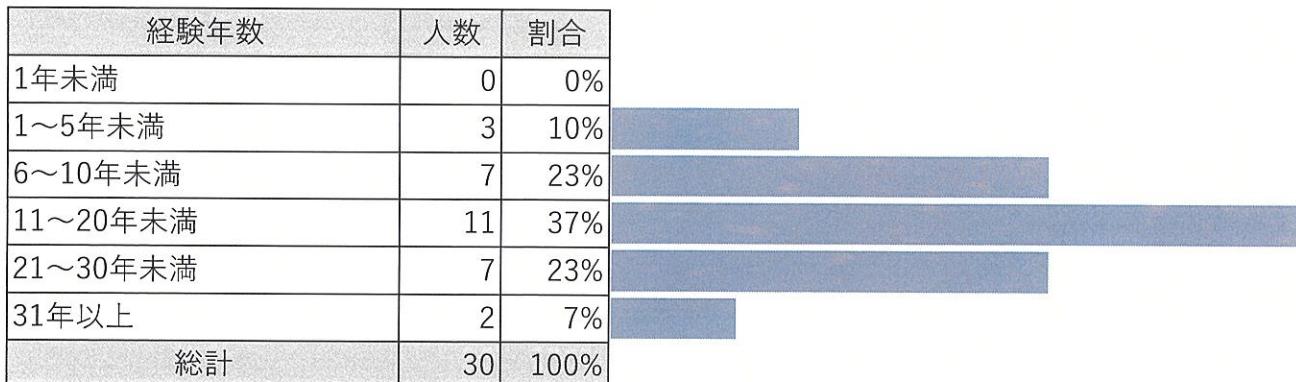
講 師：玉木 千賀子 氏（社会福祉士）、寺田 明弘 氏（弁護士）、金城 隆展 氏（臨床倫理士）

参加者：40名（医師2名、看護師11名、薬剤師6名、リハビリ2名、介護職3名

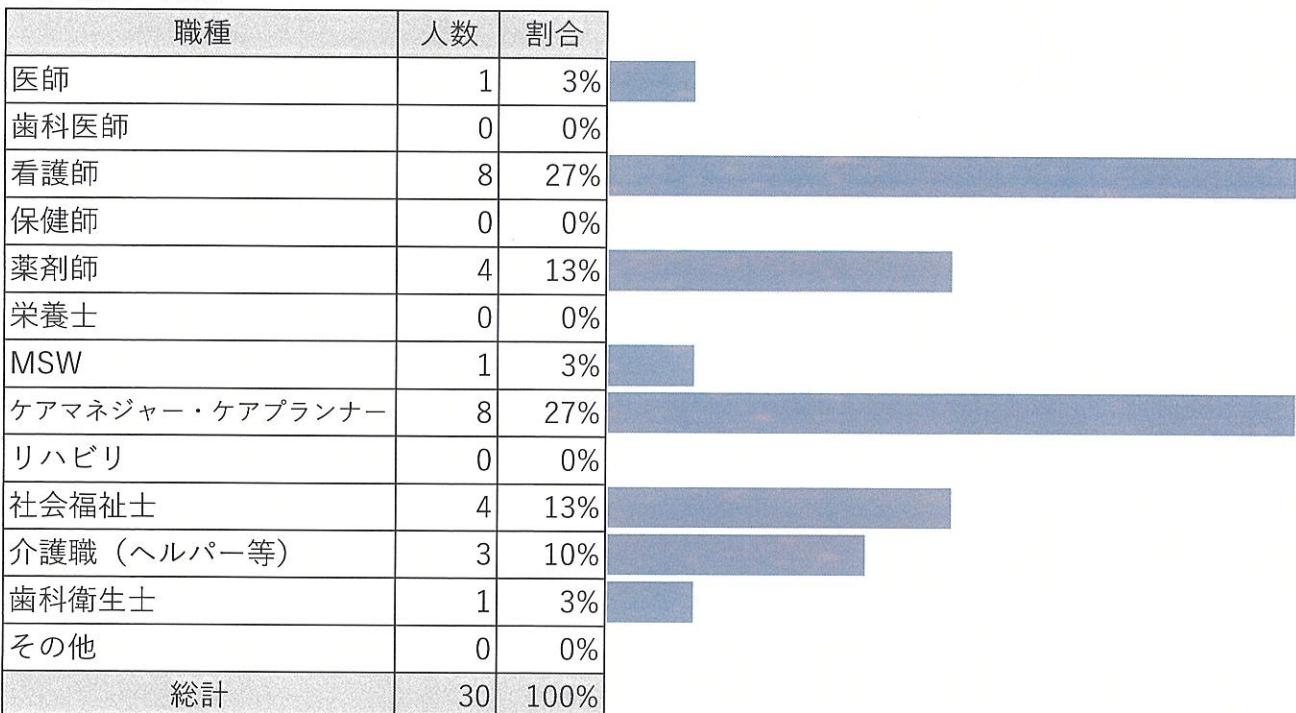
ケアマネジャー・ケアプランナー8名、MSW3名、社会福祉士3名、その他2名）

アンケート回答者：30名（回収率75%）

1. 経験年数について

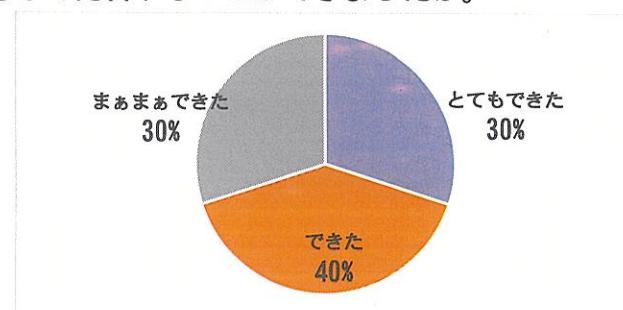


2. 職種の内訳



3. グループワークでは、ご自身の意見を遠慮なく発言することができましたか。

選択肢	人数	割合
とてもできた	9	30%
できた	12	40%
まあまあできた	9	30%
できなかった	0	0%
総計	30	100%



*グループワークに関するご意見・ご感想等がありましたら、お聞かせください。

- ・誰となく話し合いができる、スムーズに役割分担もできて良かった。
- ・今回は3人しかいなかったので、意見を言う事ができた様な気がする。
- ・各職種の視点で意見交換できた。
- ・多職種連携をする必要性が良く分かりました。色々な職種の方の意見は、とても勉強になりました。
- ・話し合いがしやすい時間帯でした。
- ・「本人が答えを持っている」を常に意識したい。支援者側で話を進めて、これが良いと思い本人の想いを無視していたことを反省したいです。専門職で話し合うこと、皆で話し合って本人の想いを聞き取れるようにしていきたいです。
- ・多職種の方の意見・専門的な話しが聞けて参考になりました。
- ・様々な視点が得られた。
- ・色々な立場の人の考え方方が聞けて良かったです。
- ・多職種と楽しくお話ができました。
- ・症例の経過を小出しに進めていくのが斬新でした。上手くいった症例で少し驚いた（実際には上手くいかないことが多いのではないか？）
- ・お互いの思いや考えを話し合いました。妻の思うことや考えを聞いてみる事等を学べました。
- ・いろんな職種の方の意見が聞けて学ぶことができた。
- ・少人数でたくさんの意見交換ができる良かったです。

4. 3名の講師へのご意見・ご感想等がありましたら、お聞かせ下さい。

- ・普段の現場だと、どうしても患者さんよりも自分たちの視点で話を進めてしまうが、福祉・法律・倫理の観点も大事だと感じました。
- ・各々の専門的視点でコメントしてもらえて、とても勉強になりました。次回も楽しみにしています。“本人を中心”という支援を忘れずにいたいと思いました。
- ・毎回勉強になります。ありがとうございました。
- ・それぞれの専門家の視点からの意見に気づきがありました。考えたこともなかった意見があり、とても勉強になりました。
- ・倫理、法律、福祉の視点で意見を聞けて良かった。本人の意見をナラティヴに聞くというところが勉強になりました。
- ・考え方いろいろな角度があることが分かり、納得できた。
- ・とても勉強になりました。
- ・玉木先生：「支援」と「業務」の違いについて、本人の人生に一緒に関わっていくという大切な視点を学ばせていただきました。
- ・分かりやすい話で大変勉強になった。
- ・受診しない理由は、長男への経済的軽減だけではないと思います。もちろんそれも大事だと思いますが、本人が生きたいと思っているのか？もしかしたら受診時に責められたのでは…

- 専門家の考えが聞けて勉強になりました。
- 今回も三者三様で興味深く、お話をうかがいました。
- それぞれ先生方のお話はとても分かりやすく、とても参考になりました。
- 話が聞きやすかったです。
- 同じ症例を異なる視点で解説していただき勉強になりました。
- ナラティヴは相手ではなく自分（支援者）を変えるもの、確固たる意志ではなく関係性でつくられる意志という話は参考になった。
- それぞれの職種の立場から意見があり勉強になる。現実も本人・家族・職員等の意見が違う。
- 気持ちいいお話、意見等があり学ぶ時間でした。
- それぞれの専門分野の視点から解説が聞けて良かった。もっと詳しく聞きたいと思うこともあり、時間が足りないと思った。
- それぞれの先生の視点から、普段の業務でどれだけクライエントの幸せを考えて関わることができているのか、振り返るきっかけになりました。ありがとうございました。

5. 本研修会全体へのご意見・ご感想等がありましたら、お聞かせ下さい。

- 薬局だと出会わない症例であり、考えさせられます。他の職種の意見や仕事内容も見えてくるので有意義です。
- 前回も同様、限られた時間の中で内容を盛り込みすぎて、ゆっくり話す時間がなくなった気がします。もう少し時間にゆとりをもったケースにした方が良いと感じます。グループワークを4回もしなくても良かったのでは？ 時間内で確実に終了できるようにしてほしい。
- 倫理、法律、福祉の意見を同時に聞ける研修会はないので面白かったです。
- また参加します。
- 時間内に終わってほしい。
- 明るさが感じられる事例は良いと思いました。
- 気づきが多く、しっかり学ばせていただきました。ありがとうございました。
- 勉強になった。時間超過が残念だった。
- グループワークでの発表で3名が発表内容を是認していたので、各グループが自信になったと思います。
- 現実的にサービスを受けさせる方法を知りたい。
- 事例資料が配布されたので良かった。自宅でも振り返られるので助かりました。
- 改めて色々考える事が多くありました。

6. 本研修で取り上げて欲しい困難事例がありましたら、お聞かせ下さい。

- 身寄りのない方が増えて、キーパーソンがいないとサービスを拒否される、入居できない。